

Press Release

報道関係者各位

令和6年1月10日
一般社団法人 中部地域づくり協会

～2024年は、AIなどのデジタル技術を活用し、

インクルーシブ防災の取り組みを推進～

防災啓発10大ニュース 2023

2023年は、「ダイバーシティ（多様性）を意識したインクルーシブ防災」に本格着手し、水害から大切な命を守るために、幅広い年齢層や防災に関心の薄い人、障がいのある人や外国人など、あらゆる人に向けて、誰一人として逃げ遅れないよう、「事前の備えや早期避難を後押し」する取り組みを進めて参りました。

これらを達成するためには単独での取り組みでは啓発効果が限られることから、多様な機関との繋がりを構築し、繋がりは、国、県、市町、警察、消防、学校、教育委員会などと多岐に渡り、2023年の防災講座の実施（55校）及び防災イベントなどへの参加（36回）は合計91回となり、昨年の54回から約1.7倍に増加しました。また、5年間で延べ93校で防災講座を実施し、受講した児童・生徒・学生は約5,500人となりました。

今回、2024年の更なる取り組みの推進に繋げるため、2023年を振り返り、今回10大ニュースとして取りまとめました。地域づくり技術研究所では、2024年も引き続き、災害から大切な命を守るため、社会の変化やニーズを捉え、AIなどのデジタル技術を活用し、あらゆる世代、障がいのある人、外国人など、ダイバーシティ（多様性）を意識したインクルーシブ防災に積極的に取り組んで参ります。

問合せ先

（一社） 中部地域づくり協会 地域づくり技術研究所

所長 犬飼 一博

TEL：052-871-9380

*中部地域づくり協会は、国土の利用、整備、保全、災害防止などの事業を行い、国土の健全な発展に寄与することを目的とする一般社団法人です。



地域づくり技術研究所は SDGs の達成に貢献します。

*番号は順位を表すものではありません

① ダイバーシティを意識し、多様な機関との繋がりで防災啓発の取り組みを推進、インクルーシブ防災に本格着手（通年）

国、県、市町、警察、消防、教育委員会、小・中・高校、大学、外国人、障がい者など様々な「つながり」により、防災講座の実施や防災イベントなどへ参加し、防災啓発の取り組みを行った。2023年の防災講座の実施（55校）及び防災イベントなどへの参加（36回）は、合計91回となり、昨年の54回から約1.7倍に増加した。

また、インクルーシブ防災に本格着手し、防災講座を実施した55校のうち、特別支援学校や聾学校での防災講座は9校、受講した児童・生徒は約250人となった。また、生活介護事業所や障害者生活支援センターでの防災講座で、様々な障がいのある方への防災啓発を実施した。その他、愛知医科大学と連携し、介護施設等防災リーダー養成研修において、VRによる浸水疑似体験や装置を用いた液状化実験を行った。

2024年は新たに、水防団に向けての講演会やVRによる浸水疑似体験、高校生が中学校などに出向き防災講座を実施するためのプログラムを予定しているほか、生成AIを活用した防災啓発の取り組みを検討する。

また、引き続き、社会の変化やニーズを捉えた新たな取り組みも念頭に、より多くの「つながり」を構築しながら、ダイバーシティ（多様性）も意識したインクルーシブ防災により、事前の備えや住民避難を後押しする取り組みを推進していく。

② 小・中・高校・大学・特別支援学校・聾学校で防災講座を開催、実施校が55校と大幅増、5年間で延べ93校、受講した児童・生徒・学生は5,000人を超える（通年）

教育委員会の協力も得て、小・中・高校・大学・特別支援学校・聾学校を対象に、災害への備えや早期避難などを学ぶとともに「避難インフルエンサー」育成に向け、水害・地震に関する防災講座を55校で開催し、昨年の25校から倍増となった。また、5年間で延べ93校で実施、受講した児童・生徒・学生は約5,500人となった。講座では、解りやすく防災への関心を高めるため、浸水疑似体験VR、浸水疑似体験映像、「あつ森」の防災啓発動画、デジタル展示館などデジタル技術によるコンテンツを活用したほか、ペットボトルを用いた気象に関する実験や高潮実験、堤防決壊の仕組みを学ぶ実験、液状化実験なども行った。

2024年も引き続き、防災講座などによる若年層の防災意識向上と「避難インフルエンサー」育成に向けた取り組みや、障がいのある方への防災啓発を推進していく。

③ 災と Seeing（さいとシーイング）の取り組みを継続実施（通年）

大規模災害に備え、地域の防災力向上を図るため、名古屋大学減災連携研究センター、CBCテレビ、中日新聞と連携して防災啓発活動「災と Seeing（さいとシーイング）」の取り組みを昨年に継続して実施し、当協会HP「中部災害アーカイブス」で紹介した。「中部災害アーカイブス」では、「痕跡、教訓から学ぶ」ページに災害の石碑や痕跡などの記録もあわせて掲載している。

また、取り組みを、防災啓発冊子「自然に学び、自然に備える」に掲載するとともに、「おうちで災と Seeing」と題し、自宅で360度空間のバーチャルツアーが楽しめるコンテンツを制作し公開した。

④ 中部DX大賞 敢闘賞受賞（2月）、受賞の取り組みを中部技術事務所で展示（7月、8月）

「大雨から大切な命を守る」意識が、Z世代や防災への関心が薄い人たちに伝わるよう、デジタル技術を活用しトレンドを意識したコンテンツ、「浸水疑似体験 VR」、「浸水疑似体験映像」、「あつ森（ゲームソフト）を活用した防災啓発動画」、「デジタル展示館」、「災害にまつわる場所を360度空間で楽しめる、おうちで災と Seeing」による防災啓発活動の取り組み『Z世代に伝わる「大雨から大切な命を守る」防災啓発』が評価され、中部DX大賞 敢闘賞を受賞した。

また、受賞の取り組みを紹介するブース展示を、中部インフラDXセンター（国土交通省中部地方整備局 中部技術事務所内）において行い、期間中（7月18日～8月10日）には約170名の方が来場され、VRによる浸水疑似体験や、DXに関する取り組みをパネル・動画で見学いただいた。

⑤ 第27回防災まちづくり大賞 消防庁長官賞受賞（2月）

「大雨から大切な命を守る！誰一人取り残さない、逃げ遅れゼロに向けて住民避難を後押しする防災啓発」の取り組みが、「より自分の身近なこととして、自分ごととして考えてもらえるよう、伝える対象にあわせて様々な資料があり、対象者が幅広く、いろんな人に情報が届く工夫が細部に施されている点」などが評価され、第27回防災まちづくり大賞 消防庁長官賞を受賞した。

⑥ 9.28豪雨災害から40年を特集した防災啓発冊子「自然に学び、自然に備える」を発刊（5月）

当協会が毎年発刊している防災啓発冊子「自然に学び、自然に備える 2022」を作成し、40年の節目を迎えた木曾川沿いの美濃加茂市・坂祝町などや、名古屋市や瀬戸市にも甚大な被害をもたらした昭和58年9月の「9.28豪雨災害」を特集した。また、防災啓発冊子は昨年に引き続き、自宅でも防災を学べるよう電子冊子としてHPで公開している。

2024年は、伊勢湾台風から65年、昭和東南海地震から80年の節目を迎えるため、次号では特集ページの作成を予定している。

⑦ 全建賞（全日本建設技術協会）4年連続受賞（6月）

『防災啓発でSDGs達成に貢献～多様な繋がりで「大雨から誰ひとり取り残さない」地域社会を目指して～』と題した取り組みが、「若年層や障害者、外国人などを含む幅広い層の住民を対象として、VR技術も活用しながら早期避難に向けた意識改革を促した点や、多様な機関等との繋がりを構築し、多くの啓発機会を創出して、多くの人の防災意識の向上を図っている点」が評価され、全建賞（一般枠 河川部門）を4年連続で受賞した。

⑧ 流域治水オフィシャルサポーターに認定（6月）

国土交通省では、あらゆる関係者との連携の下、流域全体で治水対策に取り組む「流域治水」を促進するため、令和5年3月に「流域治水オフィシャルサポーター制度」を創設しており、今般、初の認定企業・団体等として、62の企業・団体等が「流域治水オフィシャルサポーター」に認定され、当協会はその一つとして認定された。

今後、多様な機関と連携し、流域治水の普及・啓発に積極的に取り組んでいく。

⑨ 防災啓発冊子「自然に学び、自然に備える」のデジタル録音図書を制作、盲学校などに寄贈（9月、10月）

視覚障がいのある方への防災啓発として、当協会発行の防災啓発冊子「自然に学び、自然に備える2022」のデジタル録音図書を制作し、中部管内の盲学校・点字図書館に寄贈した。なお、デジタル録音図書は当協会HPで公開し、ダウンロードして誰でも活用できる。

また、HPで公開している電子冊子は、ページをタブレットで拡大して見ることが可能であり、視覚障がいの方も内容を確認することが出来る。

※デジタル録音図書（音声デジ版）とは、視覚障がい者など活字による読書が困難な方向けの録音図書で、章や見出し、ページごとに聞きたい場所へ移動することができる。

⑩ 消防庁「防災意識向上プロジェクト」の語り部として、中部管外で初めての啓発活動を実施（11月）

消防庁「防災意識向上プロジェクト」の語り部として登録され、11月23日（木・祝）東京都大島町において、「大雨から大切な命を守る、逃げ遅れゼロに向けての防災啓発」と題し、中部管外で初めてとなる講演を実施した。VRによる浸水疑似体験も併せて行い、水害に対する防災意識の向上に努めた。

また、2024年1月12日（金）には千葉県松戸市での講演会も予定している。